北海道がんセンター通信

2012 第18号 MAY

大通り公園

CONTENTS

●道民とともにがん医療の改善に努力しよう　院長　西尾　正道 … 2

●歯科口腔外科が開設しました　歯科口腔外科医師　秦　浩信 … 3

●臨床研究部の研究発表会を開催しました！
臨床研究部長　山城　勝重 … 4

●当院におけるTQM活動について　教育研修部長　永森　聡 … 5

●平成23年度北海道緩和ケアスキルアップ研修会
第２回「がん患者の心理の理解とコミュニケーション」
緩和ケアチーム　心理療法士　奥　玲子 … 6
第３回「食事と栄養」　緩和ケアチーム　麻酔科医長　岩波　悦勝 … 7

●看護研究発表会の開催報告　看護師長（教育研修係長）相生　洋子 … 8

●お知らせ …… 9

●新任医師の紹介 …… 10

●がん相談支援情報室より …… 11

●ボランティアコンサートについて …… 12

北海道がんセンターの理念

私たちは、国民の健康のために、良質で信頼される医療の提供に努めます。

（基本方針）

1 特に、「がん克服」に寄与することを目指します。
2 常に医療の質と技術の向上を目指します。
3 医療安全を確保し、安心できる医療を提供します。
4 患者さんの権利を尊重し、誠実な医療を実践します。
5 研究、教育研修を推進し、医学・医療の発展に寄与します。

北海道がんセンター
院長　西尾　正道

道民とともにがん医療の改善に努力しよう

がん治療は最初の治療が明暗を分ける疾患です。最初の治療が適切でなかったり、最適な治療を行っても再発や転移が生じれば救命できないことが多いからです。そのためがん治療は専門医による治療が望ましく、厚労省も2007年に「がん対策基本法」を制定し、がん対策に乗り出しました。

具体的には二次医療圏毎に「がん診療連携拠点病院」の設置を目指して指定を行い、現在全国388施設が「がん診療連携拠点病院」の指定を受けています。

北海道には現在21施設が指定されていますが、その中でも各都道府県の中心的な役割を担う施設として「都道府県がん診療連携拠点病院」も指定しています。

当院は北海道の「都道府県がん診療連携拠点病院」となり、道内のがん診療の中心的・主導的な立場にあり、他の20施設を取りまとめ、道内の「地域がん登録」の業務も行っています。

３次救急救命センターの機能を北海道医療センターに移転後約２年経過し、病床数を縮小し院内のアメニティを改善し、より快適な病院とする努力を行ってきました。

また経営面では長い赤字体質から脱却することにより、医療の質を向上するために必要な投資も可能となってきました。

今後は更に充実したがん診療に心掛け、患者さんの目線に立った安心・安全で質の高い医療の提供を目指すとともに、都道府県がん診療連携拠点病院として北海道内の中心的役割を担う体制の強化を図りたいと思います。そのため、医療情報の提供や相談窓口の充実や患者さんの活動支援も行い、お互いが納得のいく誠意と熱意を持った医療を行いたいと思います。

４月からは歯科口腔外科の診察も可能となりました。口腔ケアを行うことにより、全身麻酔で手術が行われる患者さんの術後肺炎等の減少が期待できます。また抗がん剤や放射線治療を行う患者さんの口腔粘膜炎の管理等が徹底すれば、副作用を軽減できるものとなります。

また道庁も本年４月より北海道がん対策推進条例を制定し大幅ながん対策予算を計上しました。平成22年度は１億４千万円、平成23年度は２億８千万円程度であったが、平成24年度は約８億円となっています。

約120万人の年間死亡者の３割以上を占め、今や国民病とも言える“がん”を克服するためには国民・行政・医療関係者が一体となり協力して対応する必要があります。まだ不十分とはいえやっとこうした体制を構築できたと思います。

がん克服に向け、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

歯科口腔外科が開設しました

歯科口腔外科医師　秦　浩信
（北海道大学大学院歯学研究科 口腔診断内科 助教 歯学博士）

がん治療中は放射線や抗がん剤の影響で口腔内に様々な合併症が生じます。また入院中に歯痛や義歯の不適合などが生じても、かかりつけの歯科医院に通うことができないため、辛い思いをされる患者さんがたくさんおられます。そして近年、術前に口腔ケアを行うことで術後の局所感染症が減少することや、誤嚥性肺炎のリスクを減少させることが明らかになり「がん拠点病院には歯科が必要だ」という気運が全国的に高まってきました。厚生労働省もがん治療における歯科の役割の重要性に理解を示し、がん治療前後の歯科医師による口腔機能の管理や歯科衛生士による専門的口腔衛生処置を正当に評価するために、診療報酬改定を行いました（平成24年４月）。

当院では平成23年４月から私が非常勤歯科医師として週１回、院内の往診を開始しました。入院中に多くの口腔内のトラブルを抱えた患者さんを診察しましたが、残念ながら院内にはまだ十分な歯科治療設備が整っておらず、ベッドサイドで簡単な応急処置を行うのが精一杯でした。そのため、緊急に対応が必要な患者さんは近隣の歯科医院へ治療を依頼しました。歯科標榜できず、われわれの診療費は全てサービスという状況にもかかわらず、西尾正道院長をはじめ病院全体で歯科の必要性を理解してくださり、サポートいただいたおかげで往診活動を継続することができました。

そして本年度、いよいよ当院に歯科口腔外科が開設されました。院内に歯科用のレントゲン撮像装置、歯科診療台など歯科診療に必要な設備が導入されたことで、今まで往診では対応できなかった多くの歯科治療が可能となりました。診療体制は、北海道大学歯科診療センターから派遣された非常勤歯科医師（私を含め２名）が週２回（水曜日と金曜日）外来診療を行います。専門的な口腔ケアを行う非常勤衛生士１名、非常勤看護師も１名配置していただきました。

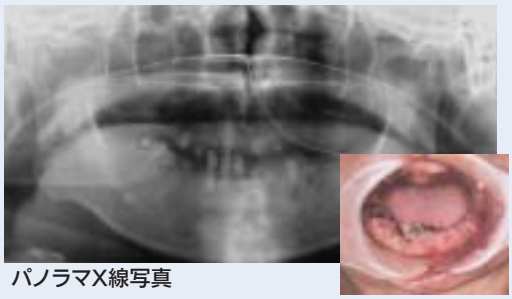
われわれの当面の目標は、入院患者さんを対象とした口腔ケアや歯科的なトラブルにしっかり対応することですが、将来的には外来患者さんにまで対象を拡げなければなりません。なぜならば、当院には外来化学療法を行っている患者さんが大勢いるからです。ただし、退院された患者さん全員の口腔管理を当科で継続していくことは、たとえ常勤体制になったとしても不可能です。今後は患者さんが地元でも安心して歯科治療を受けられるように当院と道内の歯科医院との病診連携システムの構築を北海道歯科医師会の協力のもと進めていく予定です。

質の高いがん治療を患者さんに提供するためには、職種の壁を越えたチーム医療が必要です。当がんセンターには歯科もがん治療におけるチームの一員として認識してくださる医師、看護師が大勢おります。患者さんも口腔内の悩み事がございましたら、担当医師や看護師に是非ご相談ください。

患者さん達が、がん治療に専念できるようにサポートすることが我々の使命と考え、スタッフ一同精進してまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

歯科診療台

歯科医師、衛生士による治療の様子

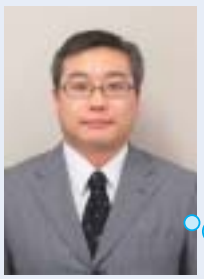

パノラマX線写真

非常勤歯科医師による 毎週水曜日、金曜日の診療体制

吉川　和人　水曜日

（略歴）
平成16年　北海道医療大学歯学部　卒業
平成16年　北海道大学口腔診断内科　入局
平成17年　北海道大学大学院（遺伝子病制御研究所）
平成21年　同上　修了
平成21年　静岡がんセンター 歯科ジュニアレジデント
平成24年　同上　修了

静岡で３年間、がん患者さんの歯科的支持療法を学んできました。よろしくお願い申し上げます。



秦　浩信　金曜日

（略歴）
平成11年　北海道大学歯学部　卒業
平成11年　北海道大学大学院歯学研究科博士課程
平成15年　同上　修了
平成15年　静岡がんセンター ジュニアレジデント（１期生）
平成18年　同上　修了
平成18年　静岡がんセンター・診断技術開発研究部主任研究員
平成19年　北海道大学口腔診断内科　助教

みなさんが、がん治療に専念できるようにサポートいたします。

がん治療前・中・後における患者様の口腔トラブルに対し・・・

歯科診療補助

口腔内クリーニング・歯石除去

セルフケア指導

歯科介入により口腔トラブルによる苦痛を最小限に留め、「食べる」「話す」といった口腔機能の維持・改善をサポートします。

歯科のスタッフを紹介します

左から 吉川先生、秦先生、江戸衛生士、伊勢看護師

臨床研究部の研究発表会を開催しました！

臨床研究部長
山城 勝重

当院の最も大切な仕事は申すまでもなくがん患者さんなどへ良質で信頼される医療をご提供することですが、「研究の推進」も基本方針のひとつとして掲げています。これを遂行するために院内には臨床研究部が設置され、予算措置も毎年なされております。具体的には、年度の始めに職員から研究課題を募集し、審査を行い採択されたものが当院の研究として認められます。研究者は１年間かけて研究成果を出し、年度末に発表会が開催され、その報告書を提出していただくという流れで運営しています。

昨年度は30課題が採択され、２月末から３月にかけて６日間にわたって研究発表会が開催されました。発表者の内訳は、医師の他にも、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、医療ソーシャルワーカーなど多岐にわたっています。その内容も国際的にも有力な医学雑誌に掲載されましたというようなものから、日々の仕事の改善を積み重ねてこんなに患者さんに喜ばれましたといったものまで多彩であります。今回はその中から２つほどみなさんに紹介いたしましょう。

婦人科の藤堂幸治医長は当院と北大病院で子宮体がん（子宮の奥にできるがん）の外科治療を行った症例を詳細に検討しました。その結果、ある症例ではリンパ節廓清を広く行えば治療成績が向上する可能性があり、またある症例ではリンパ節廓清の範囲に工夫を加えれば術後に起きる下肢のリンパ浮腫（足の強いむくみ）などの合併症を減らせる可能性があることを発見しました。彼の発見は欧米の有力な雑誌に掲載され、国内外から大きな注目を集めているとのことです。

手術中長時間にわたって同じ体位をとっているため患者さんに術後に褥瘡が発生することがありますが、皮膚・排泄ケア認定看護師の倉橋小夜子副看護師長はこれを減らしたいと考え、当院の2011年度の手術患者さん（乳がんを除く）640名の詳細な調査を行いました。その結果、19人に褥瘡が発生しており、特定の術中体位をとって300分以上の手術を受けた患者さんに多いことが判りました。この改善のためには術後に患者さんの体重とリスクに合わせた体圧分散マットレスを使用するべきとされました。

私たちは患者さんにその時々の一番良いと考えられる医療を行っておりますが、常に満足な結果が得られるとは限りません。そのためにさらに精度の高い診断法、治療効果の高い手術や薬剤の開発が行われ、また副作用の少ない治療法を求めて世界中の医療者・研究者が献身的に努力をしています。私たちの病院もこのような中に身を置き、より良いがん医療の実現のために微力でありますが一層の精進をして参りたいと考えております。

当院の研究成果などはホームページで公開していますのでお時間のある時にご覧になってください。

●ホームページはこちら → URL:http://www.sap-cc.org/Inst/index.html

当院におけるTQM活動について

教育研修部長
永森　聡

皆さんはQC（Quality Control）活動あるいはTQM（Total Quality Management）活動という言葉をご存知でしょうか。あまりなじみの無い言葉かもしれませんので、まず最初にこれらについてご説明致します。

このQC活動は、日本では製造業等の同じ職場内で品質管理活動を自主的に小グループで行うものとして1962年に初めて誕生しました。そしてこの活動を行う小グループをQCサークルといいます。

その後医療の現場でも、病院内で生まれたQCサークルやグループ改善活動は、現場スタッフ全員の智恵を動員し、自分達で解決できる問題を解決すると同時に患者本位の質の文化を浸透させるものでしたが、現在これはTQM活動に進化し、つまりトップマネージメントのリーダーシップのもとで、めざす質と戦略を明確にし、各人の役割を方向付けることを通じて、組織をあげて「患者本位の医療の質」と「質の効率」を確保し改善するシステムを構築し不断に向上させるものと言われています。

さて現在当院にはこのTQM活動を行うグループが21あり、それぞれのグループが何かテーマを見つけた時に活動を開始するというシステムをとっています。従って常時全てのグループが活動している訳ではありません。そして今回３月13日に、平成23年度のTQM活動発表会が催されました。院長先生を審査委員長として７名の審査委員のもと、５グループの活動発表が披露されました。いずれも中々の活動内容でしたが、最優秀賞（賞金５万円）は、SPDカードの紛失を防ぎ、手術の使用材料の不足をなくし手術に支障のない状況を短期間で見事に達成した手術場のグループ**SPD48（48人じゃないけど）**の『**SPDなのにどうして物がないの？ ～犯人はだれ？？？～**』が、優秀賞（賞金３万円）は、涙ぐましい努力で電気の使用量を削減することで、北電からせまられていた病院の契約電力の引き上げを見事阻止して、年間の経費を330万円節約に成功したチーム**経費削減部会・企画課契約係**の『**デマンド抑えて夏を乗り切れ ～電気節減に向けた取り組み～**』と、小さなホスピタルアートとして外来で定期的に美しい風景やかわいい動物の写真を展示したチーム**外来掲示板作業部会**の『**癒しとやすらぎを与える空間作りのために ～小さなホスピタル・アートの試み～**』が受賞しました。また院長賞（賞金１万円）として**TEAM 脱まだだよ**の『**検査待ち時間の短縮 ～生化学検査の新しい自動認証の取り組み～**』が、TQM委員長賞（賞金１万円）として**外来・レントゲン合同チーム**の『**造影剤使用カードを使用してみて【持って安心！使って安心！】**』が受賞しました。そして今回の参加者からは、TQM活動が楽しかったという声が多数聞かれました。

我国では、トヨタ自動車の『カイゼン』があまりにも有名で、トヨタは職員全員がカイゼン中毒症に罹患しているともいわれ、品質の管理・改善はあたりまえという伝統が既にあるようです。

我々の様な医療機関でも、TQM活動を通じて皆で楽しく、しかも現状に満足せずたえず改善を続けていく事で、「患者本位の医療の質」と「質の効率」を確保していく事が病院の伝統・文化になっていったらよいなあと考えています。

前列左から
菊地外来師長、筆者、西尾院長、植杉手術室師長、鈴木契約係長
後列左から 佐藤外来係長、今井病理主任

第２回　がん患者の心理の理解とコミュニケーション

緩和ケアチーム　心理療法士　奥　玲子

３月３日（土）に、平成23年度第２回目の緩和ケアスキルアップ研修会を当院大講堂で行いました。

栗原 幸江さん

今回のテーマは「コミュニケーション」で、講師として、**静岡がんセンター緩和医療科の心理療法士、栗原幸江さん**に来ていただき、約４時間の充実した内容の講演をしていただきました。

参加者は、看護師が最も多く46名、MSW７名、PT２名、臨床心理士２名、栄養士１名、ボランティアコーディネーター１名、ケアマネージャー１名、他、計61名でした。

栗原さんは、「患者さんやご家族が楽になるためには、どのようなコミュニケーションが大切なのか？」ということを、具体例をあげながら講義して下さいました。

私たち医療者は、なぜ患者さんとより良いコミュニケーションを取らなければいけないのでしょうか？

何のためにコミュニケーションを取るのでしょうか？

それは、患者さんやご家族の緊張や不安をやわらげ、今よりもう少し楽になってもらうためです。

それには、患者さんと信頼関係を築くことが必要です。今回の研修会では、「自分にとっての信頼できる人」のイメージを、それぞれが具体的に思い描くことからはじめました。そして、どうすれば患者さんと信頼を築くことができるのかをグループに分かれて話し合ってみました。

人間はもともと平等です。どんな仕事をしていても、仕事をしていなくても、老いていても、子どもでも、健康でも、病んでいても、男でも、女でも、わたしたちは平等です。より良いコミュニケーションとは、「対話」をすることです。お互いが平等であることをふまえ、「対話」することが大切なのです。

対話とは何でしょうか？　対話とは、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解する話し合いです。

対話では、たとえ相手が、自分と違う考え方や意見を持っていても、相手を尊重し理解しようと努めます。

また、栗原さんは「患者さんの気持ちをわかったつもりにならないように」と注意を促します。「大事なことほどそう簡単にわかるわけがない」と警鐘を鳴らします。

患者さんには、話すか、話さないか、何を話すかを決める権利があります。医療者が全てをおききすることが、必ずしも良いことではありません。人の気持ちには、「触れたほうが良いこと」と「触れずにおいたほうが良いこと」があります。医療者は患者さんと対話をしながら、それを探っていくのです。

研修会の後半では、ロールプレイを行い、医療者役・患者役・観察者を体験しました。「患者さんの気持ちになって考えることを学ぶことができました」「自分が患者さんの目にどう映るのか、フィードバックで気づきを得ました」などと、参加者から感想が出ました。

コミュニケーションの技術は一日で身に付くものではありません。日々のかかわりの中で学ぶ姿勢を持ち続けることが大切です。

今回の研修会で、より良いコミュニケーションの難しさ、素晴らしさを、あらためて気づかせていただきました。

コミュニケーション実習風景

第３回　食事と栄養

緩和ケアチーム　麻酔科医長　岩波　悦勝

４月７日（土）に、平成23年度第３回目の緩和ケアスキルアップ研修会を当院大講堂で行いました。

今回の研修会は、今まであまり取り上げられることが少なかった「食事」に関してです。「食事」は、衣・食・住といわれるくらい、ヒトがヒトらしく生活する上での最も基本の部分ですし、また病気とも密接に関係してくるものです。

がんに関しては、がん発生の原因の約1/3は食事が原因ともいわれています。がんの治療によっても、食欲不振や嘔気もかなりの頻度で出現してきて、がんと戦う体力をつけたいのに十分な栄養が仲々摂取できないというジレンマも生じてきます。緩和ケアの領域になってきますと、ほとんど食事が摂れなくなってきたり、嚥下困難なども問題となってきます。

そこで、今回は医療の現場でバリバリ活躍されている管理栄養士の方２名に来て頂き、それぞれの施設で行われている食事や栄養に関する取り組みについて紹介して頂きました。

稲野 利美さん

江頭 文江さん

まずお一人目の講師は、**静岡がんセンターの栄養室長の稲野利美さん**です。静岡がんセンターでは、ベッド脇の液晶画面で献立を選べたり、軽食やおやつを食べたい時にいつでも持ってきてくれる等の、先駆的なサービスを10年前の開院時より行っているそうです。また、患者一人一人のお話を十分に聞くことを非常に大事にされていて、大病院でありながら個別の対応にも力を注いでいます。

二人目の講師は、**地域栄養ケアPEACH厚木代表の江頭文江さん**で、神奈川県で在宅ケアにおける訪問栄養指導等を行っています。北海道では、このような取り組みを行っている管理栄養士さんはほとんどなく、会場の参加者も非常に興味を持って聞かれていました。

在宅ケアは、「究極の個別対応」ができる環境であり、その中でも栄養評価はとても大切で、ご家庭の食事の時間に訪問し、実際の食事の場面を確認することを重視されていました。また、具体的な調理方法や献立も提示され、その中でも私的にはエンシュアリキッドが食材の一部として使えるのは、目から鱗でした。

今回の参加者は、栄養士さんが29名、看護師さんが26名等の計71名が北海道内各地から参加されたが、90分づつの講義を２コマと時間的には比較的短時間ではありましたが、講演内容が非常に豊富で、目新しいものばかりであったため、参加者の皆さんも満腹のご様子で非常に充実した３時間であったと感じられました。

今後も継続して、食事・栄養に関した研修会、勉強会を行っていく必要を感じた、非常に有意義な研修会でした。

看護研究発表会の開催報告

看護師長
（教育研修係長）
相生　洋子

３月１日に北海道がんセンター看護研究発表会を開催しました。

今年度は、がん専門病院としての取り組みが、更にパワーアップした演題が数多くあり、先日受審しました病院機能評価ver6.0でも、看護師研修の内容や看護研究を様々な学会で発表していることは高く評価されました。

講評は、昨年に引き続き、札幌市立大学看護学部　母性看護学講師　山本真由美先生にお願いしました。先生からは、それぞれの演題に対して丁寧に講評して頂いたあとに「よりよい看護ケアの提供をしたいと思う皆さんの気持ちが伝わってくる。どの研究もケアの充実に向けた課題が明確になっている。」と総評を受けました。

最期に、中山看護部長より「患者さんにとってどのようにしたら良い看護サービスの提供ができるのかという、看護の質向上に着目した研究が多く、客観的なデータを示したところも良かった。このようにたくさんの良い研究を病院、看護部全体として共有していくのが今後の課題です。」との言葉を頂き、看護研究に携わった看護師それぞれが、看護の質向上に努めていこうと決意しました。

年度末ではありましたが、非常に多くの参加があり、活発な意見交換もなされ大変有意義な研究発表会になりました。

次年度の研究発表も期待したいと思います。

－ 平成23年度 看護研究演題 －

第Ⅰ群　座長～　佐々木 由起子 緩和ケア認定看護師

演　　題	所属	発 表 者
婦人科がん患者への性支援に対する看護師のジレンマ “看護師の性支援に対する実態調査”	５Ａ	高村　真実
倦怠感軽減を目的とした床上やベッド周囲で実施できる運動指導を実施して －抗癌剤治療を受ける悪性リンパ腫患者に焦点を当てて－	５Ｂ	高橋明日美
消化器外科術後の経腸栄養実施中の苦痛 “患者の身体的・精神的苦痛に焦点をあて探る”	４Ａ	石谷恵梨香
肺癌放射線治療におけるケアマップの有効性 “オリエンテーションによる不安の軽減を目指して”	２Ｆ	藤居　視安

第Ⅱ群　座長～　青　　志織 副看護師長

演　　題	所属	発 表 者
手術室における医療廃棄物分別の実態調査 “分別表改訂前後の効果についてアンケート調査より”	OP室	伊藤美智子
抗癌剤治療患者の情報共有に向けて、看護師の意識の変化 “患者情報共有用紙を活用して”	外来	高田　宗子
退院指導に対する看護師の意識変化 －退院オリエンテーション用紙を導入して－	６Ａ	佐藤　衣里
床上運動プログラムを用いた 術後早期離床に向けての取り組み（第２報）	ICU	矢原　育子

第Ⅲ群　座長～　高橋 由美 がん化学療法認定看護師

演　　題	所属	発 表 者
IC後の看護師の役割　－バッドニュースに焦点を当てて－	４Ｂ	松岡　直美
効果的なカンファレンスの検討“臨床倫理4分割法を用いて”	７Ｆ	島　あゆ夢
分子標的治療薬による手足症候群への 予防的スキンケアの当科の現状と今後の課題	６Ｂ	吉岡美智代

速報　第４回サクラ病理技術賞※受賞

３月28日、当院臨床検査科 東 学 さんが技術賞を受賞しました。授賞式は、第53回日本臨床細胞学会総会（2012年６月１日～３日、幕張メッセ）でのランチョンセミナーとして、2012年６月２日（土）に開催。受賞者には、オーナメントと副賞賞金が授与され、受賞記念プレゼンテーションが行われます。

【受賞理由】

バーチャルスライドおよびZavic（細胞診のためのＺ軸ビデオ）を精度管理調査に応用し病理・細胞診検査の精度向上に貢献

病理組織染色外部精度管理において、国内初のバーチャルスライドを活用した報告様式を発案し、これまで不可能であった他施設との染色状況対比確認を可能とした。

また、細胞診の精度管理においては、ビデオによる顕微鏡画像共有のためのデータベース（Zavic DB）を細胞診サーベイ実施に活用し、インターネット上での展開により、広く意見交換を行うことによる細胞診断の精度管理向上を提唱し、実際に細胞検査士会道央地区会における症例検討会での運用を開始している。

※『サクラ病理技術賞』：病理学的検査・技術に関する様々な活動を支援するため、病理検査機器・器材のトータルサプライヤーであるサクラファインテックジャパン株式会社（本社：東京、代表取締役社長：石塚悟）が、病理技術者やその団体、研究者を対象として、学術研究のみならず地域活動や後進育成など幅広い活動の中から特に優れた成果を挙げられた方々を表彰する制度として2008年に創設したものです。

選考は医師、技師、学識経験者など病理診断分野の権威数名によって構成される第三者機関（選考委員会）に委嘱されており、公正な検討の結果、このたび第４回の受賞者を選考、決定いたしました。

今回は、「技術賞」１名、「奨励賞」２名、および「松本賞」１名の受賞者が選ばれました。　（サクラファインテックジャパン株式会社ホームページより）

がん専門看護師資格取得

緩和ケア科　菊地美香副看護師長が「がん看護専門看護師」の認定を受けました。

専門看護師［Certified Nurse Specialist］とは、がん看護を含む10の分野に分かれていて、変化する看護ニーズに対して、独立した専門分野として知識及び技術に広がりと深さがあると制度委員会が認めたものを言います。日本看護協会が年に一回実施している専門看護師認定審査に合格した人へ与えられる看護師の職名です。

複雑で解決困難な看護問題を持つ患者さんとそのご家族に対して、水準の高い看護ケアを効率よく提供することを目的としています。

全国のがん専門看護師総数327名。道内は11人。（2012年４月２日現在　日本看護協会HPより）

外来予約センター運用開始のお知らせ

５月７日、より「がん検診」と「各科の入院受付」を行うため、外来予約センターが業務を開始いたします。

これまで、各科の外来で受け付けていたがん検診の予約窓口が一本化され予約受付時間も13時から16時と拡大しました。

検診メニューは従来通りです。「受けよう!!がん検診」

＊予約窓口：外来予約センター　☎011-811-9111（内線528）受付時間：13時～16時

●乳がん・婦人科定額検診プラン

- 乳がん検診（50歳未満）：問診、視触診、マンモグラフィー（２方向撮影）　5,550円
- 乳がん検診（50歳以上）：問診、視触診、マンモグラフィー（１方向撮影）　5,250円
- 婦人科検診（子宮頸がん検診のみ）：問診、視診、内診、細胞診　3,600円
- 婦人科検診（子宮頸がん＋子宮体がん検診）：問診、視診、内診、細胞診、超音波検査　6,300円

※子宮頸がんと体がん検診をセットで受診した場合、超音波検査が付属いたします。

●札幌市がん検診

札幌市がん検診は札幌市在住の偶数歳の方（乳がん検診は40歳以上、子宮がん検診は20歳以上）が対象となります。

- 乳がん検診（40歳以上50歳未満）：問診、視触診、マンモグラフィー（２方向撮影）　1,800円
- 乳がん検診（50歳以上）：問診、視触診、マンモグラフィー（１方向撮影）　1,400円
- 婦人科検診（子宮頸がん検診のみ）：問診、視診、内診、細胞診　1,400円
- 婦人科検診（子宮頸がん＋子宮体がん検診）：問診、視診、内診、細胞診　2,100円

※札幌市がん検診の場合、超音波検査は含まれておりませんのでご注意ください。

検診日は次のとおりとなります。

- 乳がん検診：毎週金曜日午後の完全予約制となっております。
- 子宮がん検診：毎週月・水・金曜日の完全予約制となっております。

●乳がん・子宮がん以外にも、次のような検診も実施しております。

＊**前立腺がんのPSA１時間検診**
検診日：毎週水曜日（14時からの完全予約制）　検診料金：4,900円

＊**胃がん・大腸がん検診**：胃がん検診は問診、胃部エックス線撮影、大腸がん検診は問診、免疫便潜血（２日法）にて検診を行います。ご予約は不要ですが、エックス線撮影に関しては後日の実施となります。
検診日：毎週月～金曜日（８時30分～11時受付）
対象：札幌市在住の40歳以上の方　料金：胃がん検診 2,200円・大腸がん検診 400円

＊**胃がん内視鏡検診（New!!）**：健診結果はその日に消化器内科医師からご説明いたします。
検診日：毎週金曜日（９時～10時50分 完全予約制）　検診料金：9,800円

※表示価格はすべて税込です。

新任医師の紹介

①名前 ②ふりがな ③職名 ④専門分野
⑤略歴・資格・所属学会 その他 ⑥メッセージ

呼吸器内科

①渡邊 雅弘
②わたなべ まさひろ
③呼吸器内科医師
④呼吸器内科
⑤日本内科学会認定医・日本呼吸器学会、日本呼吸療法医学会、日本化学療法学会
⑥3歳の赤柴と2歳の白柴が家にいます。将来はこの2匹をセラピー犬にしたいと考えていますが、はたして…。わかりやすい丁寧な説明を心がけています。よろしくお願いします。

①菊池 創
②きくち はじめ
③呼吸器内科医師
④呼吸器内科
⑤日本内科学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会
⑥肺癌の診断、治療に主に取り組んでおり、よりよい診断が出来るよう努力しております。よろしくお願いします。

消化器内科

①大須賀 崇裕
②おおすが たかひろ
③消化器内科医師
④消化器がんの診断、治療学
⑤日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本臨床腫瘍学会
⑥消化器内科医師の大須賀です。札幌医科大学第4内科から赴任して参りました。消化器病に悩まれる患者さんの心にいつも寄り添いたいと考えています。どうぞお気軽にご相談ください。

血液内科

①山川 知宏
②やまかわ ともひろ
③血液内科医師
④血液内科
⑤日本内科学会、日本血液学会
⑥千葉県出身、北海道に憧れて移住して10年になります。北海道の自然、食べ物、人柄が大好きです。患者さんにとって分かりやすく丁寧な診療を提供できるよう、尽力いたします。

消化器外科

①豊島 雄二郎
②とよしま ゆうじろう
③消化器外科医師
④消化器外科・一般外科
⑤日本外科学会、日本乳癌学会、日本消化器外科学会、日本大腸肛門病学会、American College of Surgeon（ACS）
⑥学生の頃は野球をやっていました。身体を鍛えることが趣味です。消化器外科の診療をしている一員として、その一助となれますよう、日々精励いたす所存でございます。

乳腺外科

①馬場 基
②ばば もとい
③乳腺外科医師
④乳腺外科
⑤日本外科学会専門医、検診マンモグラフィ読影認定医、日本外科学会、日本乳癌学会
⑥趣味はテニス。乳がん疾患の加療、予防に取り組んでいます。わかりやすい説明を心がけますのでお気軽にご相談ください。

①黒川 景子
②くろかわ けいこ
③レジデント
④乳腺外科
⑤日本外科学会、日本乳癌学会
⑥北海道で生まれ育ち、昨年度までは北海道と良く似ている秋田県ですごしていました。どうぞよろしくお願いいたします。

呼吸器外科

①水上 泰
②みずかみ やすし
③呼吸器外科医師
④外科学、臨床腫瘍学、胸腔鏡手術
⑤日本外科学会外科専門医、日本呼吸器外科学会、日本内視鏡外科学会、日本胸部外科学会、日本臨床外科学会
⑥これまで、消化器・一般外科、外傷・集中治療を中心に診療を行ってきました。今後は、胸腔鏡手術を中心に低侵襲な診療に日々取り組んでいこうと思います。最近は体力を落とさないようにマラソンをしております。宜しくお願い致します。

泌尿器科

①大澤 崇宏
②おおさわ たかひろ
③泌尿器科医師
④泌尿器がん
⑤日本泌尿器科学会専門医、日本がん治療学会認定医、日本泌尿器内視鏡学会、日本がん学会、日本臨床腎移植学会、米国泌尿器科学会
⑥最近2年間は臨床を離れ、大学院生として腫瘍血管新生に関する基礎研究をしていました。臨床ぼけから早く復帰できるようにと思っております。微力ながら泌尿器科診療に貢献できるように頑張りますので、よろしくお願いします。

婦 人 科

①嶋田 知紗
②しまだ ちさ
③婦人科医師
④婦人科一般
⑤日本産科婦人科学会、日本周産期学会、日本産科婦人科内視鏡学会
⑥昨年までは函館や釧路でお世話になりました。趣味はバドミントンと室内楽です。今年からはマラソンに挑戦する予定です。がんばりますので、宜しくお願い致します。

頭頸部外科

①山田 和之
②やまだ かずゆき
③頭頸部外科医師
④頭頸部がん
⑤日本耳鼻咽喉科学会、日本頭頸部がん学会、日本耳鼻咽喉科臨床学会
⑥頭頸部がんの集学的治療に取り組んでいます。親切丁寧な対応、わかりやすい説明を心がけますのでお気軽にご相談ください。なお、嗜好は炭水化物と焼肉です。宜しくお願いいたします。

①鈴木 崇祥
②すずき たかよし
③レジデント
④耳鼻咽喉科学一般
⑤日本耳鼻咽喉科学会
⑥卒後五年目の医師です。耳鼻咽喉科頭頸部外科学疾患一般の診療に携わっております。よろしくお願いいたします。

放射線診断科

①工藤 京平
②くどう きょうへい
③放射線診断科医師
④放射線診断
⑤日本医学放射線学会
⑥この度赴任した工藤京平と申します。放射線科医2年目になります。読影に血管造影に、頑張りたいと思いますので宜しくお願い致します。

がん相談支援情報室より

北海道がん専門相談員研修会を終えて

去る２月25日・26日、当院と北大病院の共催により、がん専門相談員を対象とした初の研修会を開催しました。この研修は北海道がん診療連携拠点病院の相談情報部会にて、相談員のスキルアップを目的として企画され、聖路加国際病院医療連携相談室の看護師 橋本久美子先生をお招きして、「がん相談員に必要なコミュニケーションスキル」「相談支援のプロセスとコミュニケーション技術」をテーマに２日間の講演をしていただきました。

がん相談員として５年のキャリアを有する橋本先生は、初日の講演でがん専門相談員の役割を「科学的根拠に基づき、その人（がん患者さん）が自分らしい治療や生活を見出せる調整役」であると。そのため、コミュニケーションスキル、対象者理解、他の専門職や機関との連携技術が求められるといったお話をされ、２日目は相談支援のプロセスについて、「絶えず傾聴」が心理的サポートに欠かせない、不安や動揺を受け入れつつ何が問題になっているか患者さんと認識を共有すること、問題の整理・評価を繰り返すようアドバイスを頂きました。

聖路加国際病院
医療連携相談室
看護師
橋本 久美子先生

がん患者さんは診断期、治療期、慢性期、終末期と時間の経過とともに抱える問題が変化していく中、身体、精神、社会（経済）の痛みを抱え、うつ病や適応障害の併発も少なくない現状を念頭に置き、「われわれがマネジメントしなければ」とも。遠慮せずに経済状況を聞いて対策を練るケースや精神科医の介入で症状を軽快させた事例を紹介し、「がん患者さん一人一人の三歩先の将来を見据えた上で関わっていこう」と語っておられました。

がん相談支援情報室をご利用ください

道内のがん診療連携拠点病院には「相談支援センター」があります。がんのことやがんの治療について知りたい、今後の療養や生活のことが心配etc・・・がん医療にかかわる質問や相談におこたえしています。（あなたの担当医に代わって治療の判断をする事はできません。）患者さんやご家族のほか、地域の方々はどなたでもご利用いただけます。

当院では、「がん何でも相談外来」、外来ホール１階にある「がん相談支援情報室」がこの役目を担っています。西尾院長をはじめ、看護師や医療ソーシャルワーカーが相談員として質問や相談をお受けしています。

ご相談はがん相談支援情報室に直接お越しいただく方法と、電話でお話を伺う方法があります。

がんに関するさまざまな悩みや自分の体のことを打ち明けたり、相談することには抵抗があるかもしれませんが、ご相談いただいた個人的な内容が外に漏れてしまうことは一切ありません。患者さんやご家族の生の声をがんの専門家たちに聞かせようというぐらいの気持ちで、安心してがん相談支援情報室を訪ねてください。

一般市民向け講演会等のお知らせ

お知らせ

第32回 北海道がん講演会「乳がんセミナー」

日時：平成24年６月３日（日） 13:30～16:30
場所：ホテルさっぽろ芸文館（旧北海道厚生年金会館）３Ｆ瑞雪の間

①『最新・最良の乳がん治療～北海道がんセンターの取り組み』　乳腺外科医長　渡邊 健一
②『北海道がんセンターにおける乳房再建について』　形成外科医師　齋藤　亮
③『乳がん治療における放射線治療の役割り』　放射線診療部長　沖本 智昭

着任挨拶

看護部長　佐々木 妙子
この度、弘前病院から配置換になりました「佐々木妙子」です。北海道がんセンターは初めての勤務になりますので、早く環境に慣れるように頑張ってまいりたいと思います。
看護部は患者さんの不安に配慮した気遣いと安全で安心な看護の提供を目指して参りたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

副看護部長　本間 睦子
旭川医療センターから転任してきました。北海道がんセンターは、新人の独身時代から５人家族になるまでの十数年間を、専門職として育てて頂いた病院です。以後道内３カ所の勤務を経て、再び懐かしくかつ厳しい職員の方がたが何人もいらっしゃる当院に勤務できることを嬉しく思います。DPC、建替え整備など課題が見えつつありますが、若く元気な職員がたくさんと、すれ違いざまこの方は確か○○看護師さん？などと、お互い年齢を重ねた変化を密かに感じるベテラン職員と一緒に頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

臨床検査技師長　三嶋 秀幸
４月１日付で八雲病院から臨床検査科に配置換えとなりました三嶋です。当院での勤務は、14年ぶり２回目の勤務となります。
北海道がんセンターということを意識しながら、常に患者さまの目線に立って仕事をしていきたいと思います。そして、早く仕事にも慣れ、検査科のため、また当院のためにも一生懸命頑張りますので、皆様宜しくお願い致します。

－第８回 市民公開講座－
肺がんに効く、肺がんの話を聞く会

日時：平成24年７月14日（土）
13:00～15:30（予定）
場所：すみれホテル

共催：北海道
北海道がんと闘う医療フェスタ 2012

日時：平成24年９月９日（日）
10:00～15:00（予定）
場所：北海道がんセンター

お問い合わせ先：がん相談支援情報室
TEL 011-811-9118 担当：吉田

ボランティアコンサートについて

二胡コンサートについて

平成23年度第７回目のボランティアコンサートを24年１月27日（金）外来ホールにて、「二胡演奏会」を15時より開催しました。

中国独特の楽器で、音色の美しい楽器です。

今回の演奏には、「二胡アンサンブル梅花（メイホウ）」の方々総勢10名が来院され、始めに代表のアイリー・リンさんより楽器についての話があり、開演となりました。あまり聞き慣れない楽器の演奏ということもあり、外来ホールは、患者さんで一杯となり、二胡の音色に聞き惚れていました。

バイオリンコンサートについて

平成23年度第８回目のボランティアコンサートを24年３月26日（月）外来ホールにて、15時より開催しました。

今回演奏いただく大平まゆみさんは、札幌交響楽団でコンサートマスターとして活動をされており、また、バイオリンで数々の賞を受賞されている方です。大平さんの奏でるバイオリンの音色に、ただ静かに聞き惚れるという感じでした。演奏の途中で、大平さんは患者さん達の中に入って、バイオリンを演奏され、患者さん達の拍手を浴びておりました。

ボランティアの表彰について

当院で、ボランティア活動を行っている方々で、活動年数１年以上の方に感謝を込めまして、院長より表彰状の授与を24年４月18日（水）ひだまりで実施しました。

ボランティアの方々は、13名集まり、院長より「今年もよろしくお願いします。」と感謝の言葉を添え、ひとりひとりに感謝状を手渡しました。感謝状授与が終了した後院長を含め、集合写真を撮影して表彰式を終了しました。その後ボランティアの方々と院長との懇談を行い、和気藹々のうちに時間となりました。

独立行政法人　国立病院機構

北海道がんセンター

都道府県がん診療連携拠点病院

〒003-0804
北海道札幌市白石区菊水4条2丁目3-54
代表　TEL (011) 811-9111
　　FAX (011) 832-0652
ホームページ　http://www.sap-cc.org/

● 相談窓口

がん相談支援情報室
直通電話（011）811-9118

医療連携室
直通電話（011）811-9117
直通FAX（011）811-9110

メールアドレス　hyoshida@sap-cc.go.jp

交通のご案内

【地下鉄】　地下鉄東西線「菊水駅」下車、３番出口より徒歩３分

【自動車】　駐車場につきましては数に限りがありますので、できるだけ、公共の交通機関をご利用下さい。